

第1回とよた森づくり委員会 会議録

◆日 時：平成 22 年 8 月 3 日(金) 13：30～16：30

◆場 所：豊田市森林会館

◆出席者：20 名

	委 員 名 (敬称略)	所 属
委員 12 名 (正副会長 以下 50 音順)	(会長) 岡本 譲	元愛知県賀茂県有林事務所 所長
	(副会長) 中根 芳郎	豊田森林組合 代表理事組合長
	板谷 明美	三重大学大学院 生物資源学研究科森林環境資源利用学准教授
	宇井 和男	久木地域森づくり会議代表
	大畑 孝二	自然保護関係者（財）日本野鳥の会
	蔵治 光一郎	東京大学大学院 農学生命科学研究科付属演習林愛知演習林 林長
	澤田 恵美子	豊田市消費者グループ連絡会会長
	鈴木 洸	森林所有者（和合地域森づくり会議関係者）
	鈴木 禎一	あさひ製材協同組合 専務理事
	中泉 祐子	公募委員
	山内 徹	公募委員
	山本 薫久	NPO法人「都市と農山村交流スローライフセンター」代表理事
オブザーバー 2 名	中村 雅之	愛知県豊田加茂農林水産事務所 林務課長
	洲崎 燈子	豊田市矢作川研究所 主査
事務局 5 名	原田 保裕	豊田市役所産業部 森林担当専門監兼森林課長
	北岡 明彦	豊田市役所産業部 森林課 主幹
	加藤 謙一	〃
	鈴木 満	〃 副主幹
	宇井 和廣	〃 係長
補足説明者	林 富造	豊田森林組合専務理事

◆添付資料

1. とよた森づくり委員会委員名簿

◆配布資料一覧

1. 平成 22 年度第 1 回とよた森づくり委員会次第
2. 資料 1-1 平成 21 年度森づくり事業実績
3. 資料 1-2 森づくり会議の進捗状況図
4. 資料 1-3 平成 21 年度間伐実施事業量
5. 資料 1-4 平成 21 年度林業用路網整備事業
6. 資料 1-5 平成 21 年度その他事業の実績
7. 資料 2 平成 22 年度予算及び課重点事項
8. 資料 3 国の施策の動向について
9. 別紙 4 豊田市の森林統計資料集
10. その他
 - ・現代林業 2010 年 5 月号（抜粋）
 - ・中日新聞、毎日新聞記事、朝日新聞社説

平成 22 年度 第 1 回とよた森づくり委員会 次第

1. あいさつ
2. 議事
 - (1) 平成 21 年度森づくり事業実績報告について …資料 1
 - (2) 平成 22 年度予算及び課重点事項について …資料 2
 - (3) 国の施策の動向について …資料 3
 - (4) 豊田市の過去の森林統計について …資料 4
3. その他

□次回委員会の開催日(予定)： 月 日()

開会 13:30

1. あいさつ

○事務局(原田課長) : 只今より本年度第1回目の森づくり委員会を開催したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○岡本会長 : ご苦労様です。
今回は、第1回ということで年度計画、予算関係などがありますので、よろしくお願いします。

○事務局(原田課長) : 議事に入ります前に、7月2日の日にNHKのナビゲーションという番組で森林の境界問題が取上げられた「どう守る 日本の森林」で境界の問題、取組などについて豊田市にも取材があり、私もインタビューを受けましたが、豊田市の森づくり、団地の動きが比較として分かるところもありますので見ていただいて参考にさせていただければと思います。

NHK ナビゲーション どう守る 日本の森林

○事務局(原田課長) : 今日の議論にも参考にさせていただければと思います。

○岡本会長 : それでは、議事の(1)の昨年度の実績報告から説明をお願いします。

○事務局(鈴木副主幹) : **平成21年年度森づくり事業実施報告について**…資料1により説明

○岡本会長 : 今の説明でご質問がありましたらお願いします。

○山本(薫)委員 : その他事業の実績(P6)のイベントのところにNPOスローライフが10月に香嵐渓で行った観察会も記録として入れて欲しいと思いますが。

○事務局(北岡主幹) : 追加させていただきます。

○事務局(原田課長) : 一番ポイントなのが間伐面積でP4のH21年度実績が1,477haということでもあります。
これは、森づくり基本計画からすると82.5%ということで若干まだ計画を下回っているというものであります。

○蔵治委員 : P5の林道用路網整備事業で新規路網整備延長が目標値に対して2.2倍の長さを作っていますが、計画に対して2.2倍の林道や作業道整備というのは妥当なのかということ。安全性(災害)からはどうなのか。
林道などを作り終わった後、次の大雨に対して安全なのかという点についての考えはどうでしょうか。

○事務局(原田課長) : 東海豪雨でも林道とか作業道が原因、きっかけになって災害が起きた例もありますが、路網整備していく中で絶対ならないという保障した話しは出来ませんが、災害の原因にならないような策は講じてきていると思っています。

延長が計画より一番延びているのは搬出路ですが、通常林道は計画よりも少ないですが水切りなどはしっかりやっています。

作業道は少し臨時的に作っているということで、水切りなどが不十分だったりするかもしれません。

搬出路は一度作るとその先は山に戻すということを原則としています。

○蔵治委員

： 森林に山崩れとか、洪水とかの災害を起こさない安心安全な森林という立場から言えば出来るだけ作業道とか搬出路は入れないのが、望ましいというのは科学的には反論の余地はないと思います。

森づくり基本計画の中、或は構想の中には豊田市式林道といって大雨に対して比較的安全な道を豊田市独自の道の作り方を考えるというような文言があったと思いますが、その検討がされていないと理解していますが、検討がされていないのにどんどん作業道、搬出路が延びていくように現状では見えます。

それは、もしかすると災害リスクを高めているのではないかという気がしてくるので、計画を大幅に上回ってこのまま道をどんどん作っていくという発想であれば、安全性をきちっと検証されるなりして示していただきたいと思いますので、検討願います。

○鈴木(禎)委員

： うちの山を通っている作業道があって、それが原因で山が崩れたこともあります。道路の設計基準はどうなっていますか。

○事務局(原田課長)

： 林道については、林野庁が示している林道規程に沿って作っています。作業道は森林組合さんが対策をとりながら作っています。

○林森林組合専務

： 作業道、搬出路など大雨が降ってもいいように水切りが大切です。地主さんにも自分の山の管理についてはしっかり見ていただきたいと言っていますし、組合も必要以上に雨対策の作業はしています。

○事務局(原田課長)

： 災害が起こらないような作業はしていますが、絶対に災害が起こらないかということは申し上げられません。

○中根副会長

： 作業道を作る際には、余り急勾配をつけないようにしている。

○林森林組合専務

： 県市に指導を受けながら作業を行っています。

○蔵治委員

： おっしゃることはよく分かりましたが、もう少し矢水協さんとかが濁水防止のためにやっている色々なルールが矢作川流域にあるわけですから、今の話をもう少しマニュアルとまでは言いませんが、ノウハウのかたまりみたいなものを書面としていただけると、安心するのではないのでしょうか。

今の話だと大橋式林道を使っている訳でもなく、豊田は独自の基準がある訳でもなく、今は口頭での努力にとどまっているというふうに聞こえますので、大橋式林道を全面的にそのままやっているとされる方がまだ安心しますが、そこら辺を一步進めていただきたいという希望があります。

○山本(薫)委員

： どこかで検証していく部分ではないでしょうか。

- 事務局(原田課長) : 基本計画の P22 の (b) 安全で安価な作業道・搬出路の研究にありますように定期的にモニタリングの実施が必要と考えています。
- 岡本会長 : その他何かありますか。
- 質問、意見なし
- 岡本会長 : なければ次の重点事項へお願いします。
- 事務局(原田課長) : **(2) 平成 22 年度予算及び課重点事項について**…資料 2 により説明
間伐事業についても実施目標に向けて努力していきます。
- 岡本会長 : 前回 (3 月) と余り変わっていませんが、何かご質問は。
- 山本(薫)委員 : 間伐全体の目標ですが、基本計画が 2,050ha で実際は 1,640ha で基本計画の 80%になっているのは予算上の問題でということでしょうか。
- 事務局(原田課長) : 森づくり基本計画の間伐の計画、10 年間で 25,000ha というところが年次別に出してあり、平成 22 年度は 2,050h ということになっています。
これが 1,640ha になっているという理由は、1 つには予算上の問題、もう 1 つは今の団地化の状況、森林組合の作業の能力など勘案していくと 1,640ha あたりの数字が出てくるということです。
予算もありますが、総合的にみますとこのくらいやれるということです。
- 山本(薫)委員 : そうするとその分が後へと膨れ上がっていく状態になっていき、どこかで見直しがでできますね。
- 事務局(原田課長) : 一時的には基本計画の見直しということになるかと思いますが、今の時点から「やれないので見直しを」ということは言いたくないですが、基本的には 5 年で見直しということになっているので、その中で現実には変えていく必要があると思います。
- 山本(薫)委員 : 以前に提出された資料の中でも実際に間伐が進まない原因の分析をいくつか出されているので、その分析も踏まえて数字をどう見ていくかが必要なのかと、思います。
- 鈴木(洸)委員 : 間伐を促進するには、一つの団地だけでなく 3 つ 4 つ集合してやつていけば纏まってやりやすくなるのでは。
- 事務局(原田課長) : 進まない理由として、境界確定に手間がかかるということがありますので、今後方法を考えていきたいと思っています。
- 洲崎オブザーバー : 木材利用促進プロジェクトの中身を教えて下さい。
- 事務局(原田課長) : 資料 2 の裏面の木材利用促進プロジェクトで、大規模製材プラント研

究会運営委託とありますが、これは製材工場を作りたいという希望がありまして、そのために木材関係者を集めて研究会を設けていきたいと、それを運営委託するための予算です。

それから市制 60 周年記念森林整備事業は、来年 3 月に下山の黒坂の市有林で植林をやるという計画を立てている予算です。

どうして 3 月かと言いますと、3 月 1 日が市制 60 周年ということで、それに併せてやりたいということです。

黒坂市有林の 1.5ha は昨年皆伐しまして、その後に再生林をしていくという予定で、ヒノキを植えていきます。

- 事務局(北岡主幹) : 黒坂市有林というのは新城市、旧作手村に近いところにありまして、伐採する前はヒノキの 90 年生ぐらいの人工林でした。
- 初期の手入れが悪かったこともあって成長が非常に悪く、今の林層を維持しても成長の見込みがないが市道からも近いし、現実にはしっかりした作業道も入っていて林業経営は出来るところであります。
- 例えば豊田市全体でみますと、昨年度豊田市内で新しくスギ・ヒノキを植えられたところは 5ha ないです。人工林が 3 万 ha ある内の 5ha しか植栽されてなく、そんな状況を考えると今必要なのはスギ・ヒノキの造林ではないかと。
- 今後をみたときに何が大事かというと、スギ・ヒノキの経営が成り立つような道端に近く、傾斜がゆるくて土壌条件もよいところにスギ・ヒノキを植えていく再生林も必要だろうということもあって、今回の 60 周年に併せて植林を行う予定です。
- そのときにヘクタールにどのくらい植えたらよいかということで、モニタリング調査も併せて行います。

- 蔵治委員 : 黒坂市有林にスギ・ヒノキを造林されることに異論はありませんが、市制 60 周年記念森林整備事業で市長が出席されるようなイベントであるならば市と市の森林行政でもっとも重点をおいていることをやった方が PR になるのではという意見を持っています。つまり間伐をした方が植林をするよりも市として何が一番大事なのかということが示せるのではないかという気がします。
- 日本人は、植林が大好きで植えるという発想は分かりますが是非市制 60 周年で、間伐に取り組んでいるところも見せられないかと思います。

- 事務局(原田課長) : 黒坂市有林の植林は、市制 60 周年でなくても予定はしていましたが、60 周年という冠が付けられるということもあり計画しました。
- 平成 23 年は、国際森林年でも何かイベントをやりたいと考えていますし、森づくり月間の中でも間伐の PR を考えていきたいと思っています。

- 山本(薫)委員 : 市民参画型のイベントが出来るといいですね。
- 豊田市の特徴が出るようなイベントを。

- 板谷委員 : 森林GISが導入、機械としての導入が終わったということですが、ほとんどの自治体ではデータベースがしっかりしていないところが多いようですが、豊田市は今後基本計画のとおり運用されていくのかどうですか。

- 事務局(鈴木副主幹) : 現在は、これまでの森づくり団地のデータを入れていますが、今後は

データを集めるとともに基本計画に基づく活用について検討していきます。

○岡本会長 : その他何か。

質問、意見なし

○岡本会長 : 特に無いようでしたら次をお願いします。

○事務局(原田課長) : **国の施策の動向について**…資料3により説明

○蔵治委員 : これ(森林・林業の再生に向けた改革の姿)をいくら読んでも材価が高くなるという可能性があるのか、具体的に材価をどうやって上げていくのかという戦略がどこにも書いてないのが不思議です。
ここに書いてあるようにやると末端のマーケットでは誰も買う人がいないのに大量の木材が世の中にあふれかえる結果となることが予想され、それは材価を下げる方向に作用すると。
この政策を10年間やって木材自給率が50%上がるとか、森林が再生するかといったら非常に難しいのではと個人的には評価しています。
豊田市の政策との関連でいうと豊田市はやはり安心安全の森づくりを第1に挙げているのであって、林業として自立した産業の森づくりでないものを一応優先順位を高くしていると思いますが、安心安全の森づくりの観点からは逆行するプランではないかと。
一番顕著に現れているのが、道をいっぱい作ってひたすら材を出すという発想だと思います。
道をいっぱい作るということも、材を出すということも基本的には災害の防止の観点から私はマイナスだと思いますので、そういう意味では団地化や集約化という手段は似ていると思いますが、団地化の目的が違っていると思います。
ここに載っている集約化というのは、ひたすら林業振興のための団地化集約化になっていますが、うち(豊田市)の場合必ずしもそうではない。あくまで所有者の方の合意形成で、そこで林業をやるかやらないかを決める。その場合、当然木材の価格がどのくらいで価値がどのくらいか勘案しながら決める訳であって、これは豊田市と比べると手段は似ていても目指すべき目的がかなり食い違っている印象があります。

○事務局(原田課長) : 我々行政マンですと良いか悪いかは別にして、国が方針を出していくとそれに従った形で事業とか制度が組み替えされてきますので、市としてもそれに合った実際の事業に組み込んでいかないとイケません。
私も蔵治先生が言われたように懸念の部分がありまして、道がそんなに入れる訳ないというのが一つと、それと材をどんどん出してもタダでさえ安いのにまた安くなってしまうのではという懸念な部分があります。
豊田市はそうではないんだと蔵治先生が言われたことですっきりするんですが、豊田市が今やっているのは、団地化というのをやっているんですが、これは決して道を入れて材を出すだけに団地化している訳ではないです。
ところがこの森林再生プランが言っているのが施業集約化という言葉が出てきます。それは、道を入れてまとめて施業をするために集約化す

るというのがメインで、うちの場合はもう少し広い概念で切捨ても含めて団地化して境界を見てみんなが森の管理をしていくと同時に目を向けようというのが団地化の動きですので若干違うのかと思います。うちの方が、範囲が広いと思っています。

- 岡本会長 : この森林経営計画とは、どのようなものか。
- 事務局(原田課長) : まだよく判っていませんが、従来の森林施業計画に変わるものとは聞いています。
- 事務局(北岡主幹) : 県の方へは何か連絡がありますか。
- 中村オブザーバー : 7月30日に県庁に行って確認をしましたが、県庁は県庁で林野庁に出向いていますが、基本精神的なものしか分っていないということです。情報が入り次第事務所へ流すということでした。
また基本理念だけが先走りしていて、どのような施策になるのか心配しております。
- 蔵治委員 : 林野庁よりもっと現場の情報を持っていない人が、ブレーンの的に政策を決定するという構造になっていて、そこが現場を反映していない原因だと思います。
- 岡本会長 : 成り行きを見ないとわからないですね。
それでは、次の4番目の項目をお願いします。
- 事務局(北岡主幹) : これは豊田の農林水産事務所からいろいろな資料をいただきその集計等を出来るだけいま手元にあるもので集計したものです。
また、本年度末くらいから予定しています基本計画の見直しにつなげていただくための資料の一つとして今回出させていただきました。
- 豊田市の森林統計資料集資料集**…資料4により説明
- 岡本会長 : 何か質問がありましたらお願いします。
- 鈴木(禎)委員 : 木材搬出コストはどうでしょうか。
- 事務局(北岡主幹) : 山ごとの差があまりにも激しすぎて平均値がいいのかどうか迷いますが、ある程度のデータはあります。一度調べてみるようにします。
- 蔵治委員 : 4番の価格ですが、これは製材品の価格ですか。
- 事務局(北岡主幹) : そうではなくて、木材市場の丸太価格です。
- 蔵治委員 : 例えば、これに立木の値段とか製材の値段とかは。
- 事務局(北岡主幹) : 別の資料を使えば。
全国はあります。
製材はありましたが、立木は無かったと思います。

- 鈴木(洌)委員 : 3番目と4番目の関連付けたものですが、出荷量はそんなに変わっていないのに価格が下がっていくということですが、施業の生産性を上げて持ちこたえているということでしょうか。
- 事務局(北岡主幹) : 木材価格が下がることを、高性能林業機械を使いなが少しでもコストダウンをすることによって、いままで赤字だったところを黒字にすることで生産量を維持しているという見方もできますし、高性能林業機械を動かすためにはある程度事業量を確保しなくてはいけないですから組合も頑張って利用間伐を推進しているということも言えます。
- 中根副会長 : 本当に安いです。
いま足助のセンターをどういうセンターにしていくかということを検討して欲しいと言ってあるんですが、足助のセンターへ行ったらこういう物は必ず有るよ、安定していて有るよという物はここでやって、後は直送した方が早いという部分もあります。
そこらまでどうやっていくかはまだやっていませんが、これから1年かけて検討していきたいと思っています。
岐阜なんかと比べると同じ材を出しても2~3,000円安い。
- 事務局(北岡主幹) : 名古屋市場を始めとした都市部の木材市場と比べると足助の木材市場はどうしても安い。
いくつかの要因がありますが、一つは搬出経費の問題もありますし、足助木材センターの買い方さんには、足助で買って又別の市場へ売って稼ぐという中間の卸屋さんが多いということもあり、定着してしまったということです。特別なものは高く売れるが、同じような物は安いと。
生産した木材をどうやって売ることかということも大きな課題となっています。
- 岡本会長 : 他に何かありましたら。

質問、意見なし
- 事務局(北岡主幹) : それから、「現代林業」の5月号でレポートで載った記事、それとほぼ同時に中日新聞と毎日新聞に載せていただきましたのでそれを添付させていただきました。
それと、朝日新聞の社説でも取上げていただきました。以上です。
- 岡本会長 : それでは次回の予定をお願いします。
- 事務局(北岡主幹) : 今回は、予定では11月中旬ぐらいでどうかと思っております。
その頃になると間伐の団地づくりが大分メドがたってきますし、平成21年度版森づくり白書の方も思っております。
それから自主勉強会で、団地会議の現場を見たいというのも11月ぐらいにどうかと予定しております。
- 岡本会長 : 搬出路の良い所、悪い所も見たいですね。
- 事務局(原田課長) : 自主勉強会とは別の日に予定を。

○岡本会長 ： それでは、次回は11月中旬ごろを予定ということでお願いします。

開会 16：30